

物価高騰、極端な人口減少、迫る国保税、水道料金的大幅値上げ計画 町民の生活は悲鳴

日本共産党

出浦正夫議員の3月議会報告（要約）

町民のくらしを守れ 町長の認識を問う

物価高騰の中で町民のく

らしはどうなっているか町長の認識を質問

小鹿野町の人口減少は極めて深刻、3月1日現在の状況を問う

町長は、物価高騰の影響は、町民の暮らしをはじめ、全国的に大きな影響を及ぼしているとの認識していると答弁。

埼玉県内でも人口減少が著しい小鹿野町、町の活力を維持する上でも人口問題は重要です。

3月1日現在の状況を質問。

特に食料品・エネルギー

総人口は 10004人

価格の上昇は家庭の生活費に直接的負担をかけており、中でも低所得者層や

高齢化率 42.7%

年金生活者にとっては深刻な問題であるとの認識を示しました。

65歳以上の高齢者人口は 4269人

そのうえで、対策として

令和6年度中の出生者数 17人

国の物価高騰対応臨時交付金を活用し低所得者層である非課税世帯支援、事業者支援を行うことで町民が安心して暮らしている環境づくりに努めていく必要があるとの考えを示しました。

という深刻な状況ですが4月1日には、さらに53人減少、9951人となりました。背景には、地方切り捨て、都市集中政策、若者が結婚できない働き方・低賃金押しつけなどがあります。

国の政治を変えることが根本的に必要です。

出浦議員は昨年度は提案が見送られた国保税の

大幅値上げ、水道料金の5%値上げなども迫っており、町民はこれ以上の負担には耐えられないとの考えを表明しました。

町民生活を守る対策が求められます。

おがの民報 NO 56

日本共産党小鹿野町委員会

3月議会報告

2025年4月26日（土）

電話 79・0036

小学校統合に伴う条件整備

について質問

通学バス(両神地区)運行路線について

1台を小沢口経由が実現

両神地区へは薄路線と小森路線の2台のバスが運行されますが、当初計画では2台とも黒海土バイパスから国道299号を通るものでした。

12月議会でそのうちの1台を小沢口経由にするよう要望しましたが、教育委員会の努力で小森路線のバスが小沢口経由で運行することになりました。

小沢口・下胡桃地区の児童がバス停まで近くなり便利になりました。今後、横断歩道設置などの課題が残ります。

運転手さん確保についても要望

通学バス運行については、運転手さんの確保が大切ですが、早朝勤務の上、登校と下校時のみが勤務時間で昼間は賃金にならないという問題を抱えています。

通学バスを委託する町としても対策を考えるよう要望しました。

その他、学童保育事業に関しても児童、保護者の願い実現について質問・要望しました。

水道料金大幅値上げは無理

町民負担を軽減せよ

51%料金値上げ答申が出ているが

広域水道事業経営審議会が昨年12月、水道料金を51%引き上げることが適当との答申を出しました。

日本共産党小鹿野町委員会は、201

5年6月6日付け「おがの民報」で「人口減少時代に水道広域化は、時代に逆行」とする声明を掲げ、広域化反対、事業破綻の警鐘を鳴らしました。

今回の値上げ答申は全国的に見ても類例のない大幅値上げ答申です。

答申通りに値上げされると町民の生活・事業に深刻な打撃を与えることとなります。

出浦議員は、広域市町村圏組合の理事である町長に対し料金負担を軽減するよう求め考えを質しました。

町長は、「51%の引き上げにより大幅な料金値上げが見込まれるため、町民の生活に与える影響は大きなものがある」としたうえで、「秩父広域理事会において住民の負担を軽減するための方策を検討して参りたい」と答弁。

出浦議員は、町からの繰り入れを増やしても値上げを抑えるよう求めました。

バイオマス発電所計画の

その後の進捗について質問

12月議会でも質問したバイオマス発電所建設計画の進捗について質問。担当課によると特段の動きもなく、町の懸念もそのままのことでした。

旧東電系4共聴組合の

テレビ難視聴対策を質問

もう何度目でしょうか、今回も質問。町としての解決策は進展しません。

小鹿野町の難視聴問題を3月23日、テレビ局が放送、4月17日には、参議院総務委員会で共産党の伊藤岳参議院議員が小鹿野町の難視聴問題を取りあげ質問しました。